



叶え星文様

この地に古くから根付いていた機織りの信仰、「棚機(=七夕)」。

その歴史と文化をルーツにもつ「叶え星文様」は

市制50周年を迎える小郡市の新たなシンボルの1つとなりました



閩商工・企業立地課商工観光係 ☎72-2111



「叶え星文様」のこれまで

平成30年～

おごおり七夕プロジェクト会議
で「叶え星文様」の発案・企画

令和2年12月

広報1月1日号でお披露目

令和3年3月6～14日

ハンドメイド作品展を開催

令和3年3月19日

商標登録完了

令和3年7月1日

叶え星文様の一般利用開始

令和3年8月3日～

ラッピングキャンペーン実施

令和4年3月21日

ハンドメイドマルシェを開催

天の川に隔てられた織姫と彦星のように、宝満川の対岸に織女神をまつる七夕神社と牽牛をまつる老松神社がある「七夕の里おごおり」。
そもそもこの地に七夕神社がまつられるようになったのは、小郡市を含む筑後周辺に機織りが得意な人が多くいて、古代から「棚機(=七夕)」の信仰が根付いていたことが理由の一つであると考えられています。
そんな小郡市で生まれた「叶え星文様」には、「叶えたい願いにそつと寄り添う」と

いう気持ちが進められています。緋織の技法をモチーフに「叶」という文字が表現されているほか、水引きやお守りでも使われる縁起の良い叶結びも表しています。
この叶え星文様は小郡市が商標を持っているデザインで、届出書を提出すれば誰でも利用できます。

届出書などは
こちら
[市ホーム
ページ]



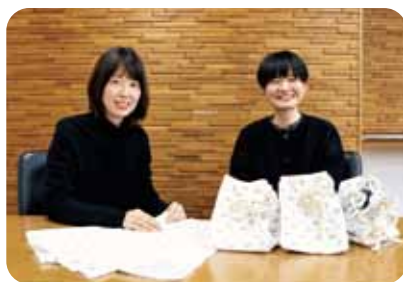
利用例は
こちら
[事務局
Instagram]



「叶え星文様」誕生秘話

「おごおり七夕プロジェクト」
会議で発案・企画された「叶え星文様」は、ハンドメイド作家の立野由紀子さんと織作家の渡辺響子さんによって、そのアイデアが提案されました。

今回、そのお二人に話を伺いました。



ハンドメイド作家の立野さん(右)
織作家の渡辺さん(左)



叶え星文様が描かれたアイシング
クッキー(焼菓子工房ガレット)

—お二人がプロジェクトに 関わったきっかけは

私たちは、市が主催する「おうち起業応援講座」の第一期生でした。そこで「おごおり七夕プロジェクト」の市民参加ワークショップに誘われたのがきっかけです。ワークショップには、小郡市を盛り上げたいという人が集まって、お見合い企画や商品開発などのアイデアが出ました。

そこで私たちが提案したのが「小郡を象徴するような文様を作ろう」というものです。「見ただけで小郡だと分かる」「付けるだけで小郡のお土産になる」「ストーリーがある」、そんなコンセプトにあう「叶」というデザイン案を思いつき、他の参加者からも賛同を得て、プロジェクトを進めていくことが決まりました。

—叶え星文様が できるまで

水引き(祝儀袋などに用いられる帯紐)やお守りで使われる叶結びをもとに、デザイナーに案をいくつか作ってもらい、みんなで意見を出し

合って決めました。こだわりは、+の交わるころの色を濃くし、織物のイメージを表現しているところです。「七夕」↓「星に願いをかける」というストーリーを表した小郡ならではの文様です。

—これからの叶え星文様

叶え星文様と小郡のイメージが結びついて、ストーリーを知ってもらい、なおかつ縁起が良いと感じられるものになってほしいです。小郡で育った子どもたちのそばにいつも叶え星文様があつて「小郡と言えば叶え星文様だね」と小郡の人たちに愛される文様になってくれたら嬉しいなと思います。

叶え星文様の

「これまで」と「これから」

叶え星文様を多くの人に知ってもらおうと、令和3年から新成人に「叶え星文様ハンドタオル」をプレゼントしています。また、叶え星文様デザインの名刺や友人への贈り物など、さまざまなおで活用が広がっています。

市徽章、七夕の里シンボルマークに続く「叶え星文様」。人々の願いに寄り添えるふるさとであるよう、小郡市ではこれからも「叶え星文様」を活用した事業や商品化推進に取り組んでいきます。



小郡市徽章
「小」の字を表現



七夕の里・おごおり
シンボルマーク



叶え星文様
将軍藤の色をイメージ